

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会

事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

北海道開拓記念館内

電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

日胆地区
NEWS

平成23年度 北海道博物館協会 ミュージアム・マネージメント研修会 報告

平成23年10月27日・28日の日程で、様似町アポイ山荘を会場に「平成23年度北海道博物館協会ミュージアム・マネージメント研修会」が開催されました。主催は日胆地区博物館等連絡協議会と日本ミュージアム・マネージメント学会(JMMA)北海道支部です。北海道博物館協会、北海道教育委員会、様似町、様似町教育委員会に後援頂きました。テーマは「観光と魅力ある博物館づくり」で、胆振・日高地区で観光面に重点を置いている館の取り組みや、近年注目を集めているジオパークの紹介がなされました。参加者は道内の博物館学芸員やJMMA会員など計41名でした。その内容を報告します。

1. 基調講演・事例発表(10月27日)

(1) 基調講演「観光と魅力ある博物館づくり」(三松正夫記念館館長 三松三朗)

北海道有数の観光地である洞爺湖有珠山は、2009年に日本で初めて世界ジオパークに登録された一つである。当館は私財を投じて昭和山を保存した三松正夫氏によって設立された火山博物館である。1910年の有珠山噴火は日本の近代火山学の始まりであり、有珠山は火山学習の野外博物館である。有珠山ツアーは今年度一万人の参加があった。災害遺構などを通して有珠山の災害を学び、地球の営みを実感してほしい。次期噴火へ向けて防災の中心となる人材を育てることを目指しており、火山マイスターもその一環である。

(2) 事例発表

- ①「ジオパークを通じたエコミュージアムの取り組み」
(様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会事務局 原田卓見)



講演会風景(様似アポイ山荘 会議室)



討論会(右から2人目が基調講演講師、
左3人が事例発表者)

様似町は現在、ジオパーク登録を目指している。本来は地下深部を構成するカンラン岩が地上で観察できることが最大の特徴である。こうした「ジオ」(地質)のほか、「エコ」(特異な高山植物、山や磯の生物)、「歴史」(金鉱山跡地)、「産業」(石灰岩、カンラン岩)など様々な観点が用意されている。拠点はアポイ岳ビジターセンターで、2013年に改築予定である。

- ②「アイヌ民族博物館の活動と観光」(財団法人アイヌ民族博物館 村木美幸)

当館はアイヌ文化を紹介する全国初の専門館として1984年に開館した。アイヌ古式舞踊は文化遺産に指定されている。民間経営のため収益確保が大きな課題である。以前は入館者の95%が日本人だったが、近年は1/3がアジア圏である。最盛期の年間87万人(平成3年度)に比べ昨年度は20万人と激減しており、入館者増へ向けて体験メニューの充実、夜間営業や移動博(札幌や大阪など)を実施している。

- ③「地球体験館シストとナイトツアー」(穂別地球体験館 武藤麻紀子)

当館は地球の歴史と環境保全の大切さを紹介する町立施設である。様々な地球環境を温度や音・光などで体感でき、サイエンスガイドが展示室を案内する。入館者数は開館した平成4年の5万人以上に対し、昨年度は2万人弱である。存続のためには町民の理解が不可欠である。今年度は「ナイトツアー」(夜間の特別案内)と「シスト」(町めぐり宝さがしツアー)を新事業として実施した。

(3) 討論会(質疑応答)

- ①地球体験館シストについて

シストは穂別地区を舞台にヒントを解きながら宝物



アポイ岳ジオパーク案内マップ
(石板はアポイ岳産のカンラン岩)

を探すゲームで、元はフランス発祥である。ヒントの設置や管理には商店等の事業者の協力が不可欠である。どの程度まで対応してもらえるのか確認しながら呼びかけ、最終的には町内の大部分の事業者に協力を頂けた。内容は毎月変えるため、町外から何度も訪れてくれた人もいた。

②観光面での民間と公立の違い

ツアーコースに取り入れてもらう方法は集客の上では有効であるが、旅行会社には手数料等を支払わなくてはならない。民間(財団法人)では可能であるが、公立(町立)の博物館では難しい。民間は最低限の収益を得られない場合には存続に関わる。公立の場合は安定はしているが様々な制約がある。

③地質を紹介する工夫

地質学は実はとても身近なものであるが、普段は気付かないことが多い。親しみやすい題材を切り口とする工夫も必要と思われる。地球の営みである火山や、その災害の痕跡を見せることもその一つ。カンラン岩は、その地域に特有の植物(超塩基性植物)を導入とする方法もある。

2. 視察研修(10月28日)

アポイ岳ジオパークのジオサイトを見学した。アポイ岳は地球深部の岩石を直接観察することができるという、地質学的に極めて重要な地域である。そのカンラン岩を、東邦オリビン工業株式会社のご好意により、採石場にて間近で観察することができた。カンラン岩の採石場は国内には当地と日高町岩内岳の2箇所のみとのことである。採掘されたカンラン岩は、そのまま建材に使用されたり、鉄を溶解する際に混入することで純度の増加に役立ったり、砂にして固めることで鋳型に使用されたり、肥料としても使われていることなどが説明された。その他、海岸沿いなどで、北海道を作っているプレート境界(日高主衝上断層)や、日高山脈の岩石やそれに伴う様々な地質現象を観察した。また、海岸沿いは難所が多いため山道が作られていて、現在はその跡を整備してフットパスコースとして活用していることなどが紹介された。

(むかわ町立穂別博物館 学芸員 櫻井和彦)



「伝える」役割を担う 土地の博物館

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域に向けて、いち早く対応したのが図書館海援隊のネットワークでした。活字文化で人びとの心を温めよう、ということでした。次に即応したのが公民館海援隊、そして博物館のネットワークでした。公民館は人と人、人と地域をつなぐ架け橋です。博物館はその土地のつながりを根付かせた活動を行うところと理解しています。

土地とのつながりは、人文、自然の分野を問わず多種多様に及びます。各地の博物館、美術館などではその土地にかかわる各分野に及ぶ多彩な企画を催しております。例えば、小樽市博物館では、小さな企画展「小樽の地名がついた植物-オショロソウとは?」(運河館)を開催し、その植物の緑を解説しております。また、本館では「和菓子から見た小樽の歴史」が企画され、和菓子の老舗を通じた小樽の歴史を垣間見る試みを行いました。さらに、4月からは「養蜂とハチの世界」と題して、小樽で行われている養蜂業の紹介をするとともに、小樽に生息する多様なハチ類のコレクション展を

企画しています。京極町教育委員会では、町に保管されていた8ミリ映像のデジタル化に取組み、完成したものを町民に向け公開しています。オリジナル版の保存はしっかりとしなければなりませんし、デジタル化して公開することも大切です。

しりべしミュージアムロード共同展は、本年10年目を迎えます。木田、西村、小川原、荒井の各美術館の学芸員がアイデアを出し合い、共同テーマを設定。各館がそれぞれの土地と館の個性に依ったサブテーマに基づき、各美術館が所蔵する作品の相互貸出し、借り入れにより展覧会を開催しております。地元の人たちとの一体感を共有できる予感があるから、さらに文化は地域を元気にすることからこのような共同展を開催し続けているのです。

土地の情報を、黒松内町では今春から「南北海道生物多様性センター」を開設し、朱太川の環境保護に向けたフィールド調査などに利用することです。

「伝える」役割をしっかりと担っている各地の博物館、その土地に定着していると人びとの生活の一部にもなるのでは、と考えます。

(倶知安町公民館 館長 矢吹俊男)



博物館施設とその周辺における取り組み

平成17年4月にオープンした勝山館跡ガイダンス施設は、史跡上之国館跡(花沢館跡、洲崎館跡、勝山館跡)のうち勝山館跡の史跡指定地内に所在しています。

当施設は、約300㎡というそれほど広いスペースではありませんが、1/200の勝山館の模型や発掘調査でみつかった出土品の他、和人の土葬墓・火葬墓、アイヌ墓のレプリカ、紹介映像などを備えております。道内では、珍しい室町時代をメインにした施設であることから、道内を初め本州からも多くの見学者が訪れております。

上ノ国町の文化財と言えば、第一に勝山館跡といった山城が知られていますが、施設の外に視点を移すと、実は勝山館跡以外にも多くの文化財及び自然の素材が点在しています。例えば、道内で現存する建物として最も古いとされる民家・神社・寺院といった旧笹浪家住宅(重要文化財)・上ノ国八幡宮本殿(町指定文化財)・上國寺本堂(重要文化財)の歴史的建造物、菅江真澄・円空が訪れたことや希少種に指定される植物などが挙げられます。

但し、これらの素材は勝山館跡ガイダンス施設だけでは学習することのできないものであるため、毎年6月に町観光協会主催の「夷王山まつり」とタイアップして、施設及びその周辺を含めた「歴史探訪」、「植物観察」などの見学会を行って周知活動をしています。今年度は、重要文化財である上國寺本堂の保存修理の様子が見学できたこともあって町外、特に函館方面からも多く参加頂きました。

今後は、施設周辺の歴史・文化や自然的な側面の情報もこれまで以上に発信し、施設とその周辺の地域を“総合的な博物館”として捉え、幅広い年代・分野の方々に興味を持ってもらえるような取り組みをしていきたいと思ひます。



改修中の上國寺本堂での見学会の様子

(上ノ国町教育委員会 学芸員 塚田直哉)



3館巡回企画展 藤倉英幸「北の風物語」 ～はり絵でつむぐ、ぬくもりの風景たち～

4月～12月にかけて上川北部の隣接する剣淵町、士別市、名寄市の3つの文化施設が協力し展示会を開催した。展示作品は、JR北海道車内誌の表紙絵として広く知られている藤倉英幸氏の貼り絵の原画で、筆で描かれた絵画とは一味違うぬくもりが伝わる作品を展示することができ、各館とも地元住民だけでなく、広く道内一円から幅広い年齢層の熱心な藤倉ファンが足を寄せ賑わいをみせた。

展示内容は、メインタイトルを「北の風物語」とし、過去にJR車内誌の表紙を飾った10作品を3館共通で展示した。その他に各館の個性を活かしたテーマを設定し、作品も変化を持たせて展開し合計40点前後を展示した。

初回の士別展では“鉄道”をテーマに貼り絵作品の他に互いの館で所蔵する鉄道資料を持ち寄り開催し、続く名寄展では“雪”をテーマとした作品と近作を中心に展示を行った。また士別と名寄では藤倉氏を招きギャラリートークと題し、各館の学芸員が進行を務め、藤倉氏の抱く道北の景色やイメージ、そして3つのマチの人々とのこれまでの繋がりや思い出



名寄会場

について語ってもらった。最後の剣淵展は絵本の館で開催し、テーマも“絵本”とし、これまで藤倉氏が手掛けた「ふるさと絵本」などの原画を展示した。

足掛け約半年にわたる藤倉氏の作品展は、多くの北海道民が旅の途中や出張の際の列車内などで一度は目にしているであろう、そして誰もがどこかで見たことのあるような“北のふるさと”を思い出させてもらえる四季折々の風景に親しむ機会を3館が連携して提供することができた。今後も博物館のネットワークを活かした企画を充実させて行きたいと思う。

(名寄市北国博物館 学芸員 吉田清人)



博物館施設等連絡協議会交流 推進会議が開催されました

道東3管内博物館施設等連絡協議会では、10月8～9日の日程で交流推進会議を標津町で開催しました。当協議会の交流推進会議は昨年度の開催が第20回目の節目であったわけですが、今回は第21回となり、また新たな一歩を踏み出す事業となりました。

本年度のテーマは「東北北海道の自然と文化3：人と湿地のかかわり」です。「東北北海道の自然と文化」をキーワードに集まるのはこれで3回目です。道東に数多ある湿原環境を様々な方向からスポットを当て、その保全や調査を持ち寄って今後の学芸業務に活かすねらいで開催されました。開催内容は以下の通りです。

基調講演

「人と湿原の共生の現状と未来」新庄久志氏(釧路国際ウエットランドセンター主任技術委員)

事例発表

「アッケシソウの保護増殖活動について」熊崎農夫博士(厚岸町海事記念館)

「天然記念物標津湿原での近年の取り組み」小野哲也氏(標津町ポー川史跡自然公園)

「野付湾・野付半島・野付通行屋跡遺跡の調査から」石渡一人氏(別海町郷土資料館)

「縄文人の湿地利用-根室市温根沼周辺の遺跡調査から」猪熊樹人氏(根室市歴史と自然の資料館)

基調講演講師の新庄さんは当協議会の先輩であり、釧路湿原の保全に向けた調査の第一人者です。湿原の成り立ちから現在の姿そして、その保全に関する近年

の取り組みまで熱のこもった講演を頂きました。また事例発表においても、各地域の湿地の再生や活用に関する取り組みや湿地と人の関わりに焦点をあてた報告がなされました。

熊崎さんは、アッケシソウの保護・増殖に

取り組んでおられ、シビアな環境で生育するアッケシソウの増殖にあたり特に、土壌の改良で様々な試みを行っていることを報告された。小野さんは標津湿原の保全・活用にむけて、標津湿原の乾燥化をモニタリングする地下水位調査やポー川でのカヌー事業の現状について報告されました。石渡さんは、平成15年から4か年に渡って調査された野付通行屋遺跡の発掘調査や文書史料や絵図からみた江戸後期の野付半島の様子について報告されました。猪熊は、ラムサール湿地風蓮湖の隣にある温根沼の東岸において、近年調査された縄文前期の貝塚調査の様子とその活用について報告を行いました。二日目は、ポー川自然史跡公園、標津川河口左岸遺跡、標津サーモン科学館を見学させて頂き、充実の研修となりました。

当協議会は道東3管内で毎年持ち回りのフォーラム形式による交流推進会を開催しています。今後も地域に根ざしたタイムリーな話題で事業の内容充実をはかりたいと思います。

(根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊樹人)



ポー川史跡



網走管内博物館連絡協議会 平成23年度個別研修会報告

網走管内博物館連絡協議会の後期個別研修会が、9月25日(日)遠軽町埋蔵文化財センターで開催された。各館・施設の体験事業の一助とすることを目的に石器作りと施設見学を行い、一般人や博物館関係者を含め12人が参加した。

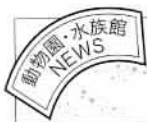
初めに体験学習スペースにて「アンジ君の大冒険! (石器づくりにチャレンジ・石器の世界へタイムトラベル)」の学習映像で石器について学んだ。その後、指導員の指示の元、参加者はゴーグルと軍手を身に付け、膝にあてる鹿の皮を敷き、ハンマーとして使用する鹿の角を持って黒曜石を打ちつけた。ポイントは叩く場所、角度、力加減を考えながら黒曜石を砕いていくことである。安易に打ち付けると大きく二つに割れてしまったり、表面が歪んでしまったりと参加者は苦戦した様子だった。そして失敗を繰り返しながら学び取り、石器が完成した。しかし魚の切り身ができるほどナイフとして使用するための石器には至らず、この体験で当時の人々の加工技術の高さを知り、自分の手で生活に必要な物を作る貴重な体験ができた。



石器作り体験の様子

次に施設見学の展示室では国指定史跡「白滝遺跡群」の紹介や「幌加沢遺跡遠隔地点」の発見者である遠間栄治記念室といった石器展示が中心で、中でも国指定重要文化財「白滝遺跡群出土品」の黒曜石ギャラリーは、石器の造形美を表現しており、室内は黒を基調に統一感あるデザインに驚かされる。それまで生活の道具として考えてきた石器が、ギャラリーに足を踏み入れると照明に照らされ輝いた石器の美しさに見とれてしまい、芸術品として感性を刺激するものである。その他、子どもも見楽しめるようにイラストで分かりやすく石器の解説とマンモスの牙に触れる展示や接合資料体験コーナーなど充実した展示室であった。

(紋別市立博物館 学芸員 春日里奈)



新施設『アジアゾーン』と『アフリカゾーン』のオープンにご期待ください!

札幌市円山動物園は、昨年、満60周年を迎えることができました。そんな中、園内でもっとも古い「熱帯動物館」が築45年を迎えたことから、現在、アジアゾーンとアフリカゾーンの整備事業を急ピッチで進めているところです。

アジアゾーン整備事業においては、「アジアに生息する希少動物を集中展示し、地理や気候、食性の違いなどアジアの自然環境の多様性を表すとともに、希少種の保存や生息域の保全の大切さを伝える」ことを設計コンセプトとしています。アジアの気候帯によって、アムールトラやユキヒョウを展示する「猛獣館」、レッサーパンダやヒマラヤグマを展示する「ヒマラヤ館」、マレーバクやマレーグマ、テナガザル等を展示する「熱帯雨林館」の3棟で構成することとしました。平成24年秋の竣工を予定しています。

アフリカゾーン整備事業においては、「地理や気候、食性の違いなどアフリカの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域の大切さを伝える」ことをコンセプトとしています。平成27年春の竣工予定ですが、特に「サバンナと水辺に生息する動物たち」を中心に、生命循環・食物連鎖と共生、そして「命のつながり」を効果的

に伝える工夫を行う予定です。

各館とも、希少動物の繁殖を考慮しながら十分な飼育スペースを確保しつつ、積雪地方にある動物園として冬期間でも来園者にゆっくり動物を観察・学んでいたできるように、屋内観覧スペースも充実させています。

また、円山動物園は、平成23年11月に経済産業省資源エネルギー庁認定の「札幌市次世代エネルギーパーク」としてオープンし、アジアゾーンには「太陽光発電」「雪冷房設備」「ペレットボイラー」設備を、またアフリカゾーンにも「太陽光発電」設備の設置を予定しています。本来の習性や行動をひきだし、生き生きとした動物の姿をご覧いただける、地球に優しい展示施設にどうぞご期待ください。

(施設名称等はいずれも仮称です)



【完成予想パース 右3棟:アジアゾーン、左1棟アフリカゾーン】

(札幌市円山動物園 飼育展示課係長 千葉司)



北海道自然誌博物館 ネットワーク事業の試み

道内には、地質や化石などの地球科学分野を専門とする博物館・資料館等が数多く存在し、様々な展示活動や普及行事等が行われている。しかし、それらの情報は、各々の館のホームページ(HP)やポスター、ちらしなどで把握しなければならず、複数の館情報を一元的に入手することは難しい。

一方、例えば地層について調べてみたい方や、子供の自由研究で化石を取り扱いたい方がいた場合、それを誰に相談し、どのように進めれば良いのか分からないという声を耳にする事がある。

これらの現状と問題点を踏まえ、多くの方々に自然科学により身近に親しんでもらい、かつ博物館利用者数の増加に寄与することを目的に、現在、北海道自然誌博物館ネットワーク(代表:櫻井和彦・穂別博物館)を立ち上げ、「北海道地質と化石の相談室」と呼ばれるHPの製作を試みている。

本HPの大きな特徴は以下の2つである。

- (1)協力博物館の担当者が各々の館の展示や行事に関する記事を投稿することができ、利用者は各館の情報を一元的に入手することができる。記事の投稿

は、ブログ形式で簡単に入力できる。

- (2)相談窓口(メール)を設けることで、利用者は地質や化石について気軽に相談する事ができる。相談内容は、協力者へメールリングリストを通じて、内容に近い専門分野の方に回答をお願いする。回答は、相談窓口から相談者へ通知する。

現在、HPを鋭意製作中であり、4月から本格運用の予定である。本HPに興味のある方は、ぜひ、ご連絡いただきたい。発展的な活動にしたいと考えている。本事業の経費は、今年度の学芸職員部会調査研究助成の支援を受け実施している。



製作中のHP (<http://www.hkmuseumnet.jp>)

(三笠市立博物館 主任研究員 栗原憲一)



プラネタリウム用デジタルコンテンツ投影システムの可能性

4月下旬より弊館プラネタリウムの番組投影機をリニューアルすることになった。この機材は一般的に全天周映像投影システムと呼ばれ、プロジェクター・操作PC・レンズ・シャッター等で構成される。プラネタリウムやドームシアターなどで映し出される全天周映像は、まるで自分がその番組の舞台に入り込んだかのような迫力と臨場感を楽しむことができる。この特徴を活かして制作された番組は見ている人を実際には行けない時間や場所へ、いとも簡単に連れて行ってくれる。かつて、全天周映像といえば、機材・ソフト(フィルム)とも非常に高価で、導入も難しく、設置したとしてもなかなか次の番組が上映できないなど遠い存在であった。しかし、近年になり、安価でしかも映像クオリティの高い製品の普及が進んできた。設置から投影までに要する時間も一番簡単なタイプであれば、わずか90分ほどであり、PC内の映像データをクリックするだけで次々と映像(番組)を切り替えて投影することが出来る。2003年には「ドームマスター」というデジタルドーム映像のフォーマットが決められ、かつて規格戦争となったビデオやDVDのようになることもなく、ユーザーにと

って扱いやすく互換性の高いものができ上がった。これは、ドームマスターに準拠して制作された映像ソフトは、システムと上映館の仕様(プロジェクターの数・設置位置、ドーム径・スクリーンの歪み)さえ分かれば、どこの館でも上映できることを意味している。さらに言えば、自分で制作した映像を世界中に配信することも可能なのである。このシステムは、プラネタリウムだけではなく、今後、視聴覚ツールとして様々な用途に利用されるだろう。例えば、森で通年定点撮影し、それを上映すれば、限られた時間の中で、森の中の移り行く季節を体験することができるし、海中で撮影すれば、海に潜れない人も簡単に水中散歩を楽しむことが可能だ。博物館資料の展示ツール以外にも観光PRや学校での学習など用途はいろいろ考えられる。スクリーンとなるドームについても近い将来、大きなものから小さなものまで、予算や用途に合わせて様々なものを選べるようになるだろう。すでに東日本大震災で被災地に移動式ドームを持ち込んで上映した実績もあり、現在はバグ一つで運べるサイズのものまで開発され、病院や介護施設の部屋に移動プラネタリウムとして持ち込むことも検討されていると聞く。未知なる可能性を秘めたこのシステムに今後も注目していきたい。

(北網圏北見文化センター 学芸員 多田成寿)



「箱絵」をつうじたアウトリーチのころみ

西村計雄記念美術館では、地域の人たちの美術館活動への参加と関心を促そうと、平成16年度より、公募展「つたえる・つたわる箱絵展」を開催している。「箱絵」とは、共和町出身の洋画家・西村計雄が、晩年制作に熱中した空き箱に描いた絵のこと。遊び心にあふれ、親しみを抱かせる。

「箱絵展」は、地域の小中学校に参加を呼びかけ始まった。第1回目は143点、第2回目は164点の応募があったが、次第に応募数が減少。そこで3年前、箱絵作りの「出前講座」の受け入れについて町内の福祉施設などに打診したところ、町内3小学校の放課後児童クラブ(学童保育)の協力が得られることとなった。

児童クラブの会員は各校とも1~3年の5~10名程度で、指導員2名が常駐している。美術館からはボランティア1~2名と学芸員が、色紙やモールなどの工作用材料と西村の「箱絵」を持参し訪問する。滞在は1~2時間で、美術館や箱絵について紹介した後、箱絵作りに挑戦してもらう。

今年は小学校の授業や幼児センター、寿大学(高齢者学級)でも同様に取り組んでもらうことができ、3才から93才まで、町民を中心に114名

の方々からご応募をいただいた。

さらに今年は、当館での「箱絵展」の開催時期に合わせて、町内の小学校で、西村の箱絵3点と資料の展示をおこなった。校長先生によると「日によって好きな作品が違う」という感想を語る子もいるという。子どもたちの日常に入り込むことで、美術館とは違った観賞体験が生まれている。



子どもたちの関心をひきつける校長先生のトーク

昨年度は、出前講座参加者のうち4分の1程度の人たちが後日家族らとともに来館してくれた。行き会った時に「楽しかったよ」と声をかけてくれる人もいて、励みになる。今後もこうした活動を継続し美術館活動への関心を喚起していきたい。

(西村計雄記念美術館 学芸員 磯崎 亜矢子)

道博協ニュース 展示会普及事業計画 (H24年4月～H24年6月)

石狩

札幌芸術の森美術館 (011-591-0090)

- 3/17～5/27 展示会「フレデリック・バック展 木を植えた男」
6/2～7/8 展示会「立体力 仏像から人形、フィギュアまで」
6/15～17 「立体力 仏像から人形、フィギュアまで」ギャラリートーク
(各日14:00～14:40)
6/22～24 「立体力 仏像から人形、フィギュアまで」ギャラリートーク
(各日14:00～14:40)

札幌市円山動物園 (011-621-1426)

- 4/28～5/6 円山動物園春まつり
6月初旬 アースデイ円山動物園
6月初旬 大人の一日飼育係
6/9 カバと一緒に虫歯予防デー
6/13 スムージアズナイト
※「期日」はいずれも予定です。

いしかり砂丘の風資料館 (0133-62-3711)

- 4/15 野外講座 石狩ビーチコーマーズ/春の漂着物

北海道開拓記念館 (011-898-0456)

- ～5/13 特別展「北の土偶～縄文の祈りと心～」
4/1 「北の土偶」展関連講座「北の土偶をより深く知るために」
4/15 「北の土偶」展関連フォーラム「北の土偶を語る」
4/21 森でさがそう①エゾアカガエルの産卵を見てみよう♪
4/22 「北の土偶」展関連講演会「北の土偶と世界遺産」
5/26 「手にとってみよう! アイヌの民具(衣服編)」
6/3 考古学講座「縄文土器をつくる(つくる)」
6/10 歴史講座「樺太野球物語」
6/17 歴史講座「近現代アイヌ史研究の現状と課題」
6/24 講座「縄文土器をつくる(焼く)」

北海道立文学館 (011-511-7655)

- 4/1～H25.3/31 常設展「北海道の文学」
4/20～5/20 常設展プレミアム「書物の美～明治・大正の詩集」
4/28 ギャラリートーク(常設展プレミアム関連、講師:当館副館長)
5/5 わくわくこどもランド「人形劇」
5/6 映画鑑賞のついで「父ありき」
5/12 製本ワークショップ(常設展プレミアム関連、講師:田原洋朗)
6/2～7/16 特別展「いせひでこ 絵本の世界-私の木、心の木」
6/2 わくわくこどもランド「絵本読み聞かせなど」
6/2 文芸講演会(「いせひでこ展」関連、
講師:絵本作家・いせひでこ)
6/23 文芸講演会(「いせひでこ展」関連、
講師:ノンフィクション作家・柳田邦男)
6/24 ギャラリートーク(「いせひでこ展」関連、
講師:絵本作家・いせひでこ)

北海道立近代美術館 (011-644-6881)

- 3/17～5/13 これくしょん・ぎやらりい
開館35周年記念コレクションへの招待
-北海道立近代美術館の名品100Part 1
4/7～5/6 特別展 阿部典英のすべて展
-工作少年、イメージの深海をゆく
4/7 オープニングトーク(トーク:阿部典英氏)
※会場:展覧会場 要観覧料
4/7 ギャラリーツアー(作品解説)
※会場:展覧会場 要観覧料
4/14 トーク&ジョークショー「走るプリキ男と工作少年、大いに語る」
(トーク:秋山祐徳太子氏、阿部典英氏)
※会場:講堂 当日先着240席 無料
4/21 ギャラリートーク ※会場:展覧会場 要観覧料
4/28 ワークショップ「自由に、グランプルー!
～深海を想像して描く～」(講師:阿部典英氏)
※会場:展覧会場ならびに造形室 要観覧料 募集制
5/5 ギャラリーツアー(作品解説) ※会場:展覧会場 要観覧料
5/19～7/8 大原美術館展 モネ、ルノワール、モディリアーニから

- 草間彌生まで。
5/19～7/13 開館35周年記念コレクションへの招待
-北海道立近代美術館の名品100Part 2 新収蔵品展
5/19 開催記念講演会
「美術の冒険 大原美術館の誕生をめぐって」
(講師:高階秀爾氏 <大原美術館館長>)
※会場:講堂 当日先着240席 無料
5/20 特別講演会「大原美術館の今
アーティストと観客との協同」
(講師:柳沢秀行氏 <大原美術館学芸課長>)
※会場:講堂 当日先着240席 無料
6/19 ギャラリーツアー(作品解説)
※トーク:大原美術館学芸員
会場:展覧会場 要観覧料
6/2 美術講座 ※会場:映像室 当日先着50席 無料
6/16 美術講座 ※会場:映像室 当日先着50席 無料
6/30 美術講座 ※会場:映像室 当日先着50席 無料

札幌国際大学博物館 (011-881-8844)

- 4/9～ 展示会 考古資料展示・アイヌ文化資料展示
(一部展示替え)
6/23～6/24 清麗祭特別企画展
6/23～6/24 勾玉づくり、砂絵で描くアイヌ文様等の体験学習

渡島

市立函館博物館 (0138-23-5480)

- 4/28～6/24 企画展「函館の麦酒」展
4/28 展示解説セミナー企画展「函館の麦酒」展
6/17 展示解説セミナー「函館博物館の民族資料」
5/20 学芸員こぼれ話「函館博物館の民族資料」
5/25 133年前にタイムスリップ「博物館旧一号館公開」
5/25 宇宙と天体シリーズ「春の星座を見てみよう」
6/10 地域の身近な自然を調べる「浜辺の漂着物を調べよう」
6/23 親子で学ぶ「不思議な石 石灰石」

後志

小樽市総合博物館 (0134-33-2523)

- 2/4～4/6 運河館・小さな企画展
「小樽の地名がつけた植物-オショロソウとは?」
4/7～6/24 企画展「養蜂とハチの世界」
4/7～6/1 運河館・小さな企画展
「文明開化～錦絵から見るくらしの変化～」
4/21 ミュージアムラウンジ「なえば公園 動植物の四季」
4/22 科学技術週間協賛イベント
「模型グライダーを作って飛ばそう」
4/28 お散歩自然観察会「早春の山中海岸を歩く」
4/29 星空観望会「金星と土星を見よう!」
4/29 運河館ギャラリートーク「ニシン場の言葉」

西村計雄記念美術館 (0135-71-2525)

- 3/15～7/16 おやこで楽しむ展覧会「おさんぽ美術館」
3/15～7/16 春から夏の展覧会「聴く-私の西村さん-」
4/21 美術館探検会
6/23 西村計雄生誕記念イベント

空知

三笠市立博物館 (01267-6-7545)

- 3/24～5/13 企画展「三笠慕情～杉田秋夫が描いた炭鉱まちの情景～」
5/3～5/5 「化石レプリカ作り体験・化石クリーニング体験」
展示解説ツアー

滝川市美術自然史館 (0125-23-0502)

- 4/8 裸婦デッサン会
4/21～5/27 展示会 たきかわARTガーデン～春のいぶき。
植物画コレクション展～
4/28 月イチリカ室(こども科学館)
5/26 月イチリカ室(こども科学館)
6/2 裸婦デッサン会
6/23 月イチリカ室(こども科学館)

上川

中原梯二郎記念旭川市彫刻美術館 (0166-52-0033)

4月～6月 中原梯二郎記念旭川市彫刻美術館
ステーションギャラリー常設展示

北海道立旭川美術館 (0166-25-2577)

4/1～4/8 特別所蔵品点“ヴォヤージュ風景の旅”
4/17～5/27 開館30周年記念“芹沢銈介展”
4/17 オープニング・ギャラリートーク (AM 9:30～)
4/17 美術講演会「芹沢銈介-浄化装置の完備されたからだ-」
(AM10:00～)
4/28 ギャラリー・トークI「芹沢銈介 戦前の作品」
(PM 2:00～)
5/5 ギャラリー・トークII「芹沢銈介 戦後の作品」
(PM 2:00～)
5/12 ワークショップ
「芹沢銈介展で職人体験! はじめての印染」
5/19 ワークショップ
「芹沢銈介展で職人体験! はじめての印染」

士別市立博物館 (01652-2-3320)

4/29～6/17 展示会「春の草花展」
5/19・20 植物バラタクソノミスト養成講座 in 士別

名寄市北国博物館 (01654-3-2575)

4/6～4/22 展示会「及川幸雄絵画展」(仮称)
4/27～5/13 展示会「野外植物展」(主催:なよろ野の花の会)
4/28～5/6 ゴールデンウィーク企画「博物館で遊ぼう!」
5/12 小さな自然観察クラブ「春の生き物に会いに行こう」
(共催:道北自然観察指導員会)
6/15～7/15 道北博物館等連絡協議会巡回展「樺太展」
6/16 小さな自然観察クラブ「親子見晴山ハイキング」
(共催:道北自然観察指導員会)
6/24 自然探訪会(共催:なよろ野の花の会)

網走

北網走北見文化センター (0157-23-6742)

4/21～4/29 文化センター講座・サークル合同作品展
4/21 科学技術週間(公開発明クラブ)
4月～1月 天体観望会
5月～2月 北見少年少女発明クラブ
5/3～5/20 企画展「世界のチョウ展」
5/13 春の自然観察会
5/20 春のワッカ原生花園を訪ねて
6月～8月 シルクスクリーン講座
6月、10月 北網走北見文化センターボランティア研修

博物館網走監獄 (0152-45-2338)

4/29～9/30 博物館30周年記念 矯正資料移動展
5/3～5/5 子供の日企画 伝統遊具作り 豆草履作り
5/3～5/5 端午の節句 レンガの甕を造ろう
5/3～5/5 文化財スタンプラリー
5/20 農園体験ワークショップ「キッチンガーデンを造ろう」

紋別市立博物館 (0158-23-4236)

4/21～5/20 写真展「紋別の人・マチ・自然」
5/12 番屋講座「紋別公園の山菜を学ぼう!」(予定)
6/9 番屋講座「草花遊び」(予定)

胆振

室蘭市民俗資料館 (0143-59-4922)

4/15 とんでん館寺子屋教室「しいたけ植菌」体験学習会
5/5 民俗資料館フェスティバル

苫小牧市博物館 (0144-35-2550)

4/17～7/13 博物館郷土学習
5/5 ゴーゴー博物館
5/19 土曜体験教室 勾玉をつくろう
5/26 博物館クラブ 七輪で炭火をおこそう
6/9 土曜体験教室 博物館を描いてみよう
6/23 芸術探訪
6/30 博物館大学講座 入学式

日高

沙流川歴史館 (01457-2-4085)

4/28～5/27 展示会「写真で見る昭和のびらとり」

十勝

帯広百年記念館 (0155-24-5352)

4/14 博物館講座「カエルは全部で何頭だ?」
5/12 百年記念館友の会講演会
5/13 博物館講座「動物園で植物かんさつ」
6/16 博物館講座「蝦夷地海産物から見る近世トカチ」

北海道立帯広美術館 (0155-22-6963)

4/1～11 特別展「プリントアートの魅力」
4/1～11 コレクション・ギャラリー「コレクションのあゆみ」
4/20～6/20 特別展「画家の素顔 パレット&絵画」
4/20～6/20 コレクション・ギャラリー「具象と抽象」
4/21 美術講演会
5/19 アート・トーク
6/2 アート・トーク
6/9 キッズ・ミュージアム
6/16 キッズ・ツアー
6/30 美術講演会

神田日勝記念館 (01566-6-1555)

2/14～6/24 平成23年度第二期常設展「神田日勝と鹿追」
4/24～5/6 展示会「新世紀の顔・貌・KAO/最終章」展
4/24～5/6 展示会「東北芸術工科大学の美術家たち」(仮称)展
(会場:鹿追町民ホール)
6/5～6/24 展示会「渡会純版画展～童謡の世界～」展
6/17 第18回 蕪撃祭
6/26～10/21 平成24年度第一期常設展「神田日勝と静物」(仮称)

忠類ナウマン象記念館 (01588-8-2826)

5/5 道の駅周辺4施設連絡協議会主催子どもの日特別企画
「こどもまつりだゾウ!!」

釧路

北海道立釧路芸術館 (0154-23-2381)

4/13～6/27 展示会 チカップ美恵子展
～アイヌ文様刺繍と詩の世界から～
4/13～6/27 展示会 釧路芸術館所蔵 赤穴 宏展
トーク&ポエム・リーディング①
「チカップ美恵子の詩とインドへの旅」②「朗読の集い」
4/15 講演会「チカップ美恵子が遺そうとしたもの
～母から娘への虹の歌～」
4/28 学芸員による観賞ツアー「チカップ美恵子展」
5/5 コンサート「ハボシタ/母のゆりかご」
5/12 学芸員による観賞ツアー「チカップ美恵子展」
5/13 ギャラリートーク「写真が伝えるチカップ美恵子の世界」
5/26 学芸員による観賞ツアー「チカップ美恵子展」
6/9 学芸員による観賞ツアー「チカップ美恵子展」
6/10 ワークショップ「はじめての刺繍
～暮らしの中のアイヌ文様～」
6/23 学芸員による観賞ツアー「チカップ美恵子展」
6/24 ギャラリートーク「写真が伝えるチカップ美恵子の世界」

釧路市子ども遊学館 (0154-32-0122)

～4/4 春休みイベント「春RUNRUN♪
～夢に向かって”ホップステップジャンプ”～」
4/28～5/6 GWイベント「木のおもちゃで遊ぼう!」

標茶町郷土館 (01548-7-2332)

4/28～5/6 館外企画展「しべちや アイヌ語地名とアイヌの伝説」
※釧路湖エコミュージアムセンター会場で開催
6/20 共催講座「マサコヤノシマ発掘見学会」

根室

根室市歴史と自然の資料館 (0153-25-3661)

6月上旬 春の星座観望会
6月上旬 春の自然観察会
6月上旬～7月下旬 資料館企画展(タイトル未定)